

18/02/16 15:15 <NQN>☆ビットコイン、第5勢力躍進で1万ドル回復 参加者限定「静かなうたげ」 LCF2290

インターネット上の仮想通貨ビットコインの相場が戻り歩調を強めている。日本時間16日未明に1ビットコイン=1万ドルの大台を約2週間ぶりに回復した。仮想通貨全体の時価総額で現在5位の「ライトコイン（LTC）」の存在感が急速に高まり、LTC取引の証拠金にも用いられるビットコインの価格を押し上げている。

情報サイトのコインデスクによるとLTCの価格は日本時間15日夕に1LTC=約240ドルと、14日の160ドル程度から一気に50%上昇した。ビットコイン以外の仮想通貨を取引する際にはビットコインを証拠金として差し入れるケースが多い。このためLTCの急騰と歩調を合わせるようにビットコインの需要が増えたとみられる。

ライトコインはおよそ1500種類ある仮想通貨のうちビットコイン、イーサリアム、リップル、ビットコインキャッシュに次ぐ勢力を持つ。ビットコインよりも高速で低コストでの取引が可能とうたい、グローバルな決済ネットワークの構築に役立つというのがウリだ。今月中にもLTCを使った即時決済や、法定通貨との交換ができるスマートフォンアプリが公開されるとの観測が今週に入って広がり、にわかに注目度が高まった。

折しも米国株相場が急速に持ち直し、リスク運用に対する投資家の心理は改善している。日本時間6日には約3カ月ぶりに1ビットコイン=6000ドルを下回っていたビットコイン相場は、10日程度の極めて短い期間で大台を回復できたことになる。

シカゴ・オプション取引所（CBOE）やシカゴ・マーカントイル取引所（CME）でビットコインを売り持ちにしていた欧米ヘッジファンドなどの投機筋は耐えるのが難しくなっているようだ。市場では「ファンドは遠からず手じまいに動き、今度は新たに買い持ちを積みあげるかもしれない」（仮想通貨市場の調査やマイニングを手掛けるアルトデザインの藤瀬秀平チーフアナリスト）との声が出ている。香港を拠点に仮想通貨関連ファンドを運用するクリプトムーバーも「市場のセンチメントは買い持ち形成の方向に次第にシフトしている」と変化を感じ取っていた。

問題は取引の厚みがまったく戻っていないことだ。情報サイトのコインマーケットキャップによれば、日本時間16日12時時点で直近24時間の仮想通貨全体の売買高は250億ドル程度にとどまる。200億ドルを下回った前週末からはやや持ち直しているものの、ピークだった1月上旬の700億ドル程度には遠く及ばない。「流動性」が乏しいなかでのライトコインやビットコインの上昇だけに、市場では「持続性に確信がもてない」との警戒感が濃い。

仮想通貨市場では今年に入って交換業者を巡る不祥事が国内外で相次いだ。コインチェッ

クが仮想通貨の取引を再開すれば、一気に換金売りが膨らんで相場が崩れるとの懸念も根強い。「中長期的には規制強化やマネーロンダリング（資金洗浄）防止に向けた取り組みを通じて健全な市場に整備される」（藤瀬氏）とみられているものの、まだ不透明感はぬぐえず、参加者限定の「静かなうたげ」が続いている。〔日経QUICKニュース（NQN） 尾崎也弥〕